



スポンジしぼり

ご家庭でも、子ども達はお水を触るのが大好きではないでしょうか。このお仕事もその大好きなものの1つです。2つのガラスのボウルを用意し、一方に入れた水の中に、乾いた海面のスポンジを入れると、ムクムクと膨らみます。そのスポンジの水をもう一方のボウルに移して絞ります。触感覚が刺激されて楽しく、注意深く洗練された動きが自然と身につく、自信や自立心にも繋がってきます。気が済むまで、やらせてあげたいですね。



幾何たんす

感覚教材の1つで、6つの引き出しに色々な図形がそれぞれ分類されて入っています。子ども達は、1段ずつ見たり触ったりしながら、微妙な形の違いを見分け、木枠にぴったりと“はめる”ことを楽しんでいます。また、モンテッソーリ教育では、最初から正式な名称を教えますので、「これは正方形」「これは円」「これは正三角形」などと言っています。お部屋の中から“同じ形探し”も楽しいですね♪



銀行ごっこ

数教具の花形ともいえるお仕事です。モンテッソーリ教育では、子どもが1から10までの数と量をしっかりと理解したと思ったら、次は1, 10, 100, 1000 という4桁までの“位”を教えてしまいます。それも、ビーズを使って！ビーズだから、目に見えて量がグングンと多くなるのです。子どもの理解出来る“感覚”に訴えていて、ちょっとおもしろいでしょうか？今、流行り出しているのは、どんどん足して多くなっていく“たしさん”です。どんどん少なくなっていく“ひきさん”、同じ量で増えていく“かけさん”や、みんなで同じに分ける“わりさん”などもありますよ。ゆっくり楽しみながら進めますね。



*保護者の方に“お仕事”をご紹介する目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子ども達は、自分でお仕事を選びます。私達は1人ひとりの“自己選択”の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、1人ひとり個性がありペースが違います。私達は、観察を通して適切な誘いかけをしていきます。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらおうようなつもりでお読みください。

モンテッソーリ教育の小窓

新年度がスタートして、1ヶ月がたとうとしています。どのお部屋も私たちが大事にしていることは、「子どもたちが生活の主人公である」ということです。プライマリーでは、早くも子どもたち同士のつながりが強くなってきています。年長児の新青バッチさん中心に活発な動きがみられます。それはお当番活動で、中でも食事の準備の時です。「〇〇ちゃんこっちのテーブルに持ってきて」「テーブルクロスはあと何枚いる？」「先生はどこで食べる？」そんな会話が聞かれます。子どもたちは、最後まで自分たちで行なっているんですよ。この時に私たち大人はどのような配慮が必要でしょうか？それは必ず同じ場所に同じ物があり、子どもが取りだしやすい位置に整えてあげることです。そうすることで子どもたちは、必要な物を取りだし、役割を決めて自分達で進めていけるのです。「自分は大切な存在で、まわりの人たちから必要とされている」と感じるができます。誰かのために…そんな実体験を繰り返しながら、子どもたち自身で自分たちの生活を準備しているのです。「4月はじめのこの時期にお当番活動が自分たちでできるのでしょうか？」と思われる方もいらっしゃるかもしれません。ご存知のとおりモンテッソーリ教育による異年齢混合クラスのお部屋です。昨年度、共に生活した前の青バッチさんに教わっているのです。その姿を見ているんですね。私たち大人が伝えるより、ちょっと大きいお兄さんお姉さんが身近にすることで、子どもたちは「自分でもできるかな？やってみよう！」そんな気持ちになるのです。また自分よりも小さい子にお世話をするのもとても上手になります。なぜなら、ちょっと前に自分自身がお世話をしてもらっているからです。私たちは、そんな子どもたち同士のつながりを間近に見て、子どもからたくさんことを学ばせてもらっています。私はマリア・モンテッソーリの言葉を思い出します。「平和は子どもからはじまる」という言葉です。このように新しいお部屋づくりは、こどもたち同士が助け合い、育ちあいながら繰り返されています。この先、黄バッチさん赤バッチさんもたくさん刺激をうけ、ますます活発になっていくでしょう。

個別活動 モンテッソーリ活動



五十音並べ

縦割りの環境にいる子ども達は、かなり早い時期から文字についても自然に興味を示します。今、赤さんが夢中になっているお仕事に「五十音並べ」というものがあります。これは五十音表を書いた木の板が一文字ずつバラバラになっていて、一度外に出したそれらをパズルの様に合わせて、表を作るだけのシンプルなお仕事です。

中には五十音を口ずさめる赤バッヂさんもうらっしゃいますが、自分一人で文字を並べるのはまた違ったワクワク感があるようです。友達が行っている最中も気になって仕方ありません。友達の間違いを指摘したくてうずうずしている子もいます。でもそれはしてはいけないお約束になっているのです。誰でも人から言われるのは嫌なものです。訂正板を使って、確かめて間違いに気づいたら自分で正しく直すのです。モンテッソーリ教育ではそれを「間違いの自己訂正」といい、とても大切にしていることのひとつです。



今、しゅんなお仕事



色板Ⅰ～Ⅲ

人は五感を通じて周りの環境を感じとりながら日々生活しています。見る、聞く、味わう、嗅ぐ、触る…幼い子ども達は、人生の中で最も感覚が敏感な時期にいます。感覚は使えば使うほど洗練され、生きるちからが身についていくので、この敏感期に応えるためのお仕事はモンテッソーリ教育にはたくさん用意されています。中でも視覚に着目したお仕事の1つが「色板」です。光沢のある色とりどりの絹糸が巻かれた美しい教具に、子どもたちは目を輝かせて取り組んでいます！色板には3つ箱があります。まず第1の箱は、赤・青・黄の3原色が1対ずつ入っています。第2の箱は3原色とその混合でできる色、紫・橙・緑・茶色に加えて桃・白・灰色・黒が加わり11色の板が1対ずつ入っています。これらを使って色合わせのゲームや身の回りで同じ色を探したりしながら自然と名称を覚えていきます。子どもたちの色の世界がぐっと広がっていくのがわかります。そして第3の箱は9色が7段階のグラデーションになっています。大人でも見間違えうくらいの微妙な色の違いですが、子どもたちはいとも簡単に！いきいきと並べていきます。こうした色の違いに気づける感性が、未来の芸術家を生むのかもしれないですね！



テーブルを洗う

子どもたちが大好きな水を使うお仕事です。クレヨンやペンで汚れたテーブルを子どもたち自身で綺麗にします。汚れたテーブル面を、石鹸をつけたブラシを使ってこすり、スポンジで拭き取り、乾いた小布でふき上げます。バケツや洗い桶、水差し、ブラシなど、活動に使う用具はすべて子どもたち自身が取り扱える小さいサイズになっていて、用具の特徴やその使い方を習ったあと、心ゆくまでテーブルを磨き、用具を片付けるまでの一連の活動をします。お家ではなかなかさせてもらう機会がない水を使ったお仕事は子どもたちにはとても魅力的で、大人がするような仕事をさせてもらう喜びで、長い工程のお仕事をやり遂げ、ピカピカになったテーブルをお友達にも褒めてもらって大満足します。これからの季節、テラスでの水のお仕事ますます活発になりそうです。ブラシを使ってクルクル磨く動きは、やがて鉛筆を持って書く柔らかな手首を作っていきます。



*保護者の方に「お仕事」をご紹介する目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子ども達は、自分でお仕事を選びます。私達は1人ひとりの“自己選択”の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、1人ひとり個性がありペースが違うのです。私達は、観察を通して適切な誘いかけをしています。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらうようなつもりでお読みください。

モンテッソーリ教育の小窓

今月は、保育参観がありますので、プライマリーのモンテッソーリの活動の様子をご紹介します。それぞれのお部屋の設定は、感覚活動、数活動、言語活動、日常生活の練習のコーナーに分かれています。子どもたちは、お部屋に入るとお仕事の棚をのぞきこみ、自ら選びます。また、自分の引出しからおしごとを出して、つづきを仕上げていきます。黄、青バッヂは時間をかけ、仕上げていく活動も増えてきています。私たちは、子どもが選ぶ様子をそっと見守ります。あえて、声をかけません。主体であるのは子どもたちで、自分の意思をもって活動に取り組む時間だからです。しかし、時には静かに寄り添い声をかけます。「このおしごと、昨日やってみたけど、どうだった？もう一回やってみる？」必ず、自らやってみたい気持ちを引き出す言葉がけをしています。選択できるよう準備をしますが、少なくとも多すぎてもいけません。また、おしごとは同じものがいくつもありません。お友達がしていると「やってみよう」と思う子どもは、終わるまで順番を待ちます。本当にやりたい活動ですから、待つことができるのです。私たちは、その姿を見逃さず、必ずその日のうちに実現できるようにしてあげます。その繰り返しが大人や子ども同士の信頼関係や、おしごとに対する意欲につながるからです。お部屋の中にある物には、子どもが扱いやすい子どもサイズであることはもちろんですが、落とすと割れてしまうような素材でできている物もあります。体験をとおして扱いかたを学びます。その姿は、真剣そのもの。このように、大人と同様の本物を使わせてもらった時、自尊心が育ちます。そんな姿もみていただければでしょうか。今はお部屋から、テラスへと活動の場も広がってきています。「明日もやってみよう！！」「テーブル（テーブルを洗う）のおしごとやってみよう！！」子どもたちの声をキャッチして、明日へとつながるおしごとを一緒に楽しんでいきたいです。

個別活動 モンテッソーリ活動



数の棒

(数教育)

感覚教材で「長い・短い」「多い・少ない」「大きい・小さい」の概念を十分身につけると子ども

たちが次に向かうのが数の世界です。数のお仕事の中でも一番最初に行うのが『数の棒』です。「え？赤バッチさんでも数？」と思われるかもしれませんが、子どもたちは数の活動が大好きです。子どもたちは、普段の生活の中でお菓子を数えたり、分けたり、牛乳をもっと入れて～と要求したり…数量に関する活動をごくごく自然に行っているからです。数は人の生活と共にあると言えます。モンテッソーリの活動は日常の雑多な経験を正しく整理づけてあげる役割も果たしているのです。

「数の棒」は最短10センチから最長100センチまでの10本の棒から成っていて、10センチずつ交互に赤と青に塗り分けられています。この棒を何度も数えていくうちに、子どもたちは「1が5あると5」「1が10あると10」であることが分かるようになり、量の違いを感覚的に学んでいくことができるのです。ここから始まるモンテッソーリの数の活動は、人生を豊かにする数の世界への扉を開いてくれるのですね！



靴を磨く

(日常生活の練習)

黄色バッチさんが今夢中になっているお仕事に「靴を磨く」があります。普段履いている靴とは違う素材の「本皮の子供靴」はそこに置いてあるだけで、子どもたちにとっては、興味津々です。初めてこのお仕事をし出した日は、「これどうするの？」や「履いてみても良い？」など言いながら、子どもたちの人だかりができました。

靴を磨くためには、いくつかの用具が必要となります。3種類のブラシと艶出しのパフと靴クリームです。これらにはそれぞれ「靴の汚れを取るブラシ」「靴にクリームを塗るブラシ」「靴をピカピカにするブラシ」「もっとピカピカにするパフ」等の役割があります。自分で靴クリームを付け、それぞれのブラシを使い分け無心に磨いています。磨く時の「キュッキュッ」という音や、だんだん皮が艶を帯びて変化していく様子などを楽しめるお仕事ですが、この活動もまた、お子様方は、「書く」ために必要な洗練された手首や、順序良く行なうという秩序などを知らず知らずのうちに身につけていきます。



鉄製はめこみ

(言語教育)

鉄製はめこみは、つまみがついた鉄製の図形の型です。14センチ四方の桃色の正方形の枠の中に、10種類の青色のつまみつきの図形（円、正三角形、正方形、長方形、正五角形、台形、楕円形、卵形、花十字形、曲線三角形）がはまっています。子どもたちは、自分の好きな形を選び、紙の上に枠や図形を置いて、色鉛筆でその縁をなぞります。鉄の枠の助けを借りてなぞることができるのです。楽しくて何度も繰り返すうちに、自然と鉛筆をもつための指先の力の調整や手首の柔らかさを身につけていきます。青さんにもなると、その図形を組み合わせて作図をしたり、色を塗ったり、濃淡をつけたりと、創造性を働かせて素敵な作品を作り出します。芸術の世界への広がりもある子どもたちの大好きなお仕事です。



*保護者の方に「お仕事」をご紹介する目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは1人ひとりの「自己選択」の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、1人ひとり個性がありペースが違うのです。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしています。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらうようなつもりでお読みください。

モンテッソーリ教育の小窓

先月は、保育参観がありました。子どもたちは、ちょっとそわそわ・ドキドキだったり、「見てて」とはりきっている姿もみられましたね。

少しご覧になられた方もいらっしゃるかもしれませんが、今青バッチを中心に、「食後の後片付け」が習慣となっています。食事を終え、パジャマに着替えると、必要な道具を準備して、積極的に向かっている姿は、とても頼もしいものです。この活動はモンテッソーリが「日常生活」と呼んだ活動のひとつです。食事の準備、片付け、食器を洗う、植物の水やり、洗濯、掃く、ほこりを払う、磨く…たくさんありますが、私たちの生活のまわりにあるものです。まさに大人にとっては、少し面倒に思う仕事ですが、子どもたちにとっては、これらの仕事が好きです。「日常生活」の活動は、歩行が確立し、両手が自由になった1Cの時期から始まります。1Cでは、毎日デリさんへ大人と一緒に行き、玉ねぎや、野菜をいただき、皮をむいたり、洗ったりする活動を楽しんでいます。子どもたちの遊びの様子をみていると、玩具を使って、そうじをしたり、お料理をしたり、大人がしている活動、身のまわりの事にとっても興味を示していることが伝わってきます。家族の方が、園でお手伝いの様子をみられると、「家ではやらないんですよ。」ということを目にします。でも、ちょっとだけ、子どもサイズのほうきやちりとり、ぞうきんを用意したり…なんといっても“エプロン”を用意するのも大きなポイントです。自分のエプロンがあると、特別な意味あいを持たせ、気持ちも高まります。自分のまわりでおきていることに興味をしめし、関わる経験は、家族の中で必要とされている、大切にされていると感じることでしょう。最初の「食後の片付け」の話に戻りますが、プライマリーでは、青バッチが行っている姿をみて、黄色バッチはもちろん赤バッチも自らパジャマに着替えたあと、小さい皿を洗ったり、ゴミを集めたり参加しています。私たち大人が声をかけるのではなく、お兄さんお姉さんの姿をみて、「やってみたい」と小さいながらも頼もしい姿です。自分の身のまわりに起きていることに興味を示し、実際に自分の体を使って活動すること、また、子ども同士の学びの場をこれからも大切にしていきたいと思います。

個別活動 モンテッソーリ活動

今、しゅんなお仕事



砂文字板

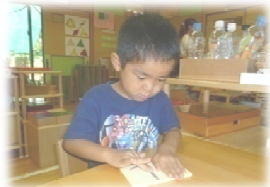
(言語教育)

今、子どもたちがとても気に入っていることのひとつに、「字を書く」ということがあります。先生の書くメモ書きや、年長児さんが自分の名前を書いたりする手の動きをじっと見ている様子をよく目にします。

そんな子どもたちにとって、初めて触れる文字の教具が「砂文字板」です。これは、すべすべの木の板の上に、ざらざらした紙を文字の形に切って貼ったものです。

感覚の教具の「触覚板」で子どもたちは、「すべすべ」「ざらざら」の感覚を沢山体験しているので、文字の形を正しくとらえ、認識することが出来ます。何度も触り、音を発音し、先生の示す見本によって、正しい書き順を学びます。

子どもたちの心の中は、「早く鉛筆を持って書きたい!」という気持ちでいっぱいですが、ここで焦らず、砂文字板を充分体験することが、後に美しい文字を書くことにつながります。正しく鉛筆を持ち、正しい筆順で、バランスの取れた文字を書くことは、一生の宝となります。(Y.S)



鏡を磨く

(日常生活の練習)

日常生活の練習には、子どもたちの好奇心をかきたてる魅力的な活動がたくさんありますが、その中の一つに「鏡を磨く」というお仕事があります。道具は、汚れた手鏡・磨き液・綿棒・綿ボール3つ・ブラシです。小皿に少量の磨き液を出し、綿棒で鏡面に塗りつけます。白く乾いたら、1つめの綿ボールで拭き、2つめでくるくると磨き、3つめで仕上げ磨きをします。溝に入った汚れもブラシできれいに掻きだすと、汚れた鏡がすっかりきれいに輝き、子どもたちは「ほお」とため息をつき満足そうな笑みを浮かべています。汚れても自分の力できれいにすることができ、それはとても気持ちのいいことだという感覚は大人になるまで引き継がれていくことでしょう。

他にも「木」や「金属」などの異なる素材磨きのお仕事もあります。これらを通じて子どもたちは環境をきれいにしていくことの歓びを味わい、また細かい指先や手首の運動を繰り返しながら書くための手をつくっていくのです。(M.I)



100と1000の鎖

(数教育)

この年齢の子どもたちは、「数える」こと自体が楽しく、夢中になって行きます。銀行あそびなどでビーズを使って活動してきた子どもたちは、そのビーズの塊の中に本当に100個や1000個のビーズが詰まっているのだろうかという1粒ずつ数えようとしてします。100のビーズは10のビーズの棒が10本横に纏められた板状のもので、1000のビーズはその100の板を10枚重ねて作られた立方体です。その塊は、中を数えることが難しく、あるいはできないため、それらを鎖状にして数えやすくした教具が「100と1000の鎖」です。

子どもたちは小さな区切りを使って1粒ずつ、数字が書かれた矢印の札を置きながらビーズを数えていきます。数えたいと望む子どもは、8メートル以上もの長さの1000の鎖に挑戦します。そして、数は長くとも連続していることを実感します。数え終えたとき、子どもたちは疲れも見せず、特別大きなことをやり遂げた満足感を感じるようです。

(Y.K)



*保護者の方に「お仕事」をご紹介する目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは1人ひとりの「自己選択」の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、1人ひとり個性がありペースが違うのです。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしていきます。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらおうようなつもりでお読みください。

モンテッソーリ教育の小窓

今年の夏は、いかにお過ごしだったでしょうか？夏ならではの遊びをご家族で楽しめたことと思います。夏休み明けの子どもたちは、満足した表情がたくさんみられました。

先日、セミのぬけがらをもって登園してきたお子さんがいました。近くの公園に行くときとたへくさんあったそうです。「みんなにみせるんだ」と目を輝かせていました。図鑑の中にあるセミのぬけがらの部分をコピーした紙ももっていました。お家で家族と一緒に図鑑をひろげて、「何のぬけがらかな？」と話しながら調べたのでしょうか。そこには、子どもの気持ちによりそい、子どものペースに合わせた時間があったんだろうと、心があたたまった瞬間でした。

子どもたちは、身近にある自然にたいしての愛情がとても豊かです。足元にある石や葉を大切に持っていたりします。そして、必ず私たちに「みて！みて！」

と見せにきます。葉を持ってきた子どもに、必ずふれてみて、「すてきだね～」とまずは、一緒にじっくり見てみます。そこに言葉はありません。すると「あっ、穴があいているよ」と子どもが話し出します。「本当だね。穴があいているね」子どもの声をしっかり受け止めます。自分で気づいたことにとっても誇らしげです。ついつい大人は、子どもたちが言う前に行ってしまった、知識や情報をたくさん伝えようとしてしまいがちですが、ちょっと子どもたち自身が主人公であることに心配りをしてみましょう。子ども自ら感じた気持ちや言葉を引き出してあげることが、とても大切なのではないのでしょうか。裏もどうか、また太陽にかざしてみたり、いろいろな方向から見せたりと、気づきをひろげてあげるのはその後も遅くはありません。そして、正しい言葉を使います。決して、子どもの言葉に対して、「違うよ○○よ」と直接訂正しないで、大人がただ、その物の正しい言葉を繰り返し伝えれば、子ども自身が気づき、子ども自らが動き出します。その姿勢を大切に育てたいと思います。モンテッソーリは、「誤りを正すこと自体よりも、誤りに気づくようになるのが大切だ、これに気づくということを学校生活の一部とする必要があります」と言っています。とても奥深い言葉だとは思いませんか？

私たち大人が、一日のうちほんのわずかでもいいので、生活のペースをスローダウンして、子どもと共感しあいながら、その時を過ごすことは、何よりも子どもたちの喜びとなるでしょう。これからの季節も楽しみですね。子どもたちと感じあう瞬間をたくさん作れるといいですね。

プライマリー AY

個別活動 モンテッソーリ活動

今、しゅんなお仕事



小さい黒板

(言語教育)

砂文字板で文字の形にたくさん触れて、書くための準備が整ったお子さんは、徐々に実際に書く活動へと進んでいきます。モンテッソーリの言語教育ではまずチョークを使って文字を書きます。これが「小さい黒板」というお仕事です。すりガラスの下に、筆順ごとに色分けされたひらがな(1画目は赤、2画目は青、3画目は黄といった風に)のお手本を敷き、チョークでなぞるのです。初めて触るチョークは子どもたちにとってとても魅力的である上に、ある程度の太さがあるのでお子さんの小さな指でも鉛筆持ちの基本となる、親指・人差し指・中指の3点持ちを意識しやすいのです。

また、いつでも消せて何度でも書けるという安心感もこの教具の良いところです。湿ったスポンジですれば簡単に消えるので、好きなだけ繰り返し活動を行なうことができます。この活動を通じて筆記用具を正しく持つ手や、筆順、書く時の姿勢を自然と身につけ、そして何よりも書く楽しさを体験してゆくのですね。(M.I)



構成三角形

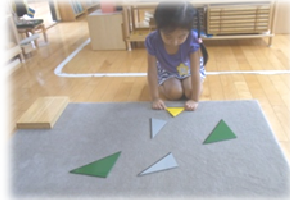
～長方形の箱A～

(感覚教育)

現在黄色パッチさんが楽しんで行なっているお仕事に「構成三角形」があります。構成三角形とは、木製の5つの箱に、さまざまな色のついた三角形の木の板が入っているものです。その中で初めて触れるのは、「長方形の箱A」です。

この箱の中には「1対の正三角形」「2対の直角三角形」「2つの異なる三角形」が入っています。たくさん三角形がありますが、初めは特徴のある3図形から行ないます。絨毯の上に三角形をバラバラに置き、まずは「同じもの探し」を行ない、同じ色と形の図形がピッタリ重なる事を楽しみます。その後、それぞれの三角形の一边についている黒い線を向かい合わせ、そーっと慎重に近づけ四角形を作ります。この黒線同士が、ゆっくり近づいて吸いつくように合わさる様子に子どもたちはワクワクドキドキするようです。

この要領で図形を増やしていき、最終的には7種類の四角形が出来上がります。それぞれの四角形の名前も知り、それら全てが、2枚の三角形から構成されていることを子ども達は理論ではなく「視覚」という感覚を使って学びます。(K.S)



小布を洗う

(日常生活の練習)

夏から、テラスで青パッチさんを中心に「小布を洗う」というお洗濯のお仕事が行っています。洗濯は、今ではスイッチ一つで洗濯機がしてくれる便利な時代ですが、そうしたものに頼らずとも、自分が着た物や汚れた物を子どもたちが自分の手を使って綺麗にする方法をここでは経験します。

お仕事で汚れた小布や雑巾などを、たらいの中で洗濯板を使い石鹸で洗います。汚れた部分が大きいほど子どもたちははりきってゴシゴシ洗濯板の上で泡立てを行います。このお仕事は使う道具も多く、準備から洗濯物を干すまで工程はとても長いものですが、手順を記憶し、手や腕を工夫しながら動かしてお仕事に集中し、やり遂げる様子を見ていますと、いろいろなお仕事の積み重ねの上に行えるようになったのだなと感慨深いものを感じます。洗濯板は簡易なものであれば、ワンコインで手に入るものですので、ぜひご家庭でも親子で洗濯を楽しんでみてください。(Y.K)



*保護者の方に「お仕事」をご紹介する目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは1人ひとりの「自己選択」の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、1人ひとり個性がありペースが違うのです。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしていきます。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらうようなつもりでお読みください。

モンテッソーリ教育の小窓

今年度も半年を過ぎようとしています。ICから移行してくる緑パッチさんも増え、積極的に新しい環境へと向かっています。モンテッソーリ活動では、ICの「おしごと」とは異なる教具に目を輝かせています。それは、感覚教具といわれるもので、ICには置いていないものなのです。

今回は、そんな緑パッチさんにぴったりのおしごとを紹介したいと思います。それは、「ピンクタワー」です。感覚教具の中でも有名な教具の一つです。ピンク一色に塗られた、1cmきざみで大きさの違う10個の立方体でできています。大きいものから順番に積み上げてタワーを作ります。緑パッチさんはだいたい大きい、小さいがわかってきますが、ピンクタワーにふれることで、その概念が明確になっていきます。まずは一緒にピンクタワーをひとつひとつじゅうたんに運びます。そして、大人が正しいやり方を見せてあげることを大切にしています。(これを提供といいます。)大人が見せてあげる時は、子どもが目で見え理解できるスピードでゆっくり積み上げます。積み上げていると「次は私…」と触りたくてしかたのない表情で待っています。最後に一番小さなピンクタワーが絨毯に残るとき、子どもと目が合います。そして、一番上に乗せると、子どもは何とも言えない表情で、私を見つめ、拍手をしてくれるのです。子どもがよく見て、気持ちを十分ためていくことが、とても大切です。一辺が1センチの立方体を指先でつまみ、乗せるときは大人でもなかなか難しいものです。その緊張感が子どもにも伝わるようです。一番大きいピンクタワーも子どもにとっては、重量感があります。緑パッチさんは、ICのおしごと「日常生活の練習」で、たくさん手を使えるようになってきています。意識しながら、手を使い、一つひとつ積んでいきます。時には、一つ抜かして積んでしまうこともあります。私たちは、気づいても知らないふりです。ちょっと待ってあげることで自ら気づく力の育ちを大切にしたいからです。子どもは正しく行おうと繰り返します。この気持ちを育てたいのです。大きい、小さいが曖昧だった緑パッチさんにとって、楽しい教具のひとつです。

子どもたちが、自ら教具と向き合っている時、私たちは、子どもが一人でできるのを一歩引いて見守ります。「すべての不必要な援助は発達邪魔になる」モンテッソーリの言葉があります。この言葉に私は、自分の言動に立ち止まる事ができます。きっとできる。そんなメッセージを子どもたちに送りながら、子どもたちとモンテッソーリ活動を楽しみたいと思います。



移動五十音

(言語教育)

以前にご紹介した「砂文字板」を経験し、筆順通りに指先で文字が書けるようになった子どもたちは、それらの独立した1文字1文字を使って「ことば作り」をします。そこで登場するのが「移動五十音」です。これは透明の小さな「う」板それぞれに50音が書いてあり、お菓子の箱のように仕切りのある箱の中に、各文字が7〜8枚入っている物です。

絨毯に一文字一文字選んで自分で組み合わせ、身近にある様々な言葉を作り出し並べます。この活動では、先生は子どもたちの作る言葉を「作る」ではなく、「書く」と言います。モンテッソーリ教育では、実際に「鉛筆を持って書く」前に、以前紹介した「砂文字板」「小さい黒板」などの他にも、様々な語彙の拡充活動や3本指で鉛筆を持つための経験をします。モンテッソーリ教育では1つの事を成し遂げるための、その準備には綿密なプログラムが含まれているのです。(K.S.)



葉の筆筈とカード

(感覚教育)

視覚に訴える感覚教具の中でも、「葉の形」に着目した「葉の筆筈とカード」というお仕事子どもたちに人気です。

3段の引き出しの中には15種類の様々な葉の形が入っていて、子どもたちはまずこれを指でなぞり形を確かめ、目でその違いを見つけながら形を吸収していきます。何度も経験した後は名前も与えるのですが、「とうらんけい」「しんそうけい」「やじりじょう」「とうだいうじょうけい」などなど…。その難しい名前も子どもにとってはとても魅力的なのです。活動の展開としてこの季節は、お散歩に行った時に落ち葉拾いをしてみたり、知っている名前の葉を探したりもしています。こういった活動を通じて子どもたちの植物や自然界に対する興味もぐっと広がり、後につながっていくのでしょね。(M.I.)



はめこみ世界地図

(文化教育)

今年の夏はロンドンオリンピックもあり、世界の国や国旗などに関心が集まりました。

子どもたちが広い世界に目を向ける機会を準備するため、モンテッソーリの文化の教具には地球儀や世界地図などがあります。「はめこみ世界地図」はアジア、ヨーロッパ、アフリカ、南米、北米、オセアニア、南極が7色に色分けされ、それぞれにつまみがついたパズルです。子どもたちは各大陸や大洋の名称や位置・形などを、パズルをしながら覚えたり、その後世界地図を紙で作る活動に進んだりします。世界全図の他に、各大陸別に国ごとのパズルも準備されています。更に知りたい望む子どもたちには、今後日本を含むアジアの国々から紹介をしていく予定です。覚えることが早くて大好きな子どもたちに負けないように、私たち大人も一緒に楽しみながら活動したいと思います。(Y.K.)



*保護者の方に“お仕事”をご紹介する目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは1人ひとりの“自己選択”の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、1人ひとり個性がありペースが違うのです。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしていきます。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらえようなつもりでお読みください。

モンテッソーリ教育の小窓

スポーツデーでは、子どもたち保護者の方たちの笑顔がたくさん見られましたね。また、子どもたちの真剣な表情もとても印象的でした。

モンテッソーリ活動でも、真剣な表情にたくさん出会えます。ある赤バッチの男の子のお話です。登園しても、なかなかお部屋に入らず、時には廊下でゴロゴロと寝転がってしまう姿も見られました。そんなことが続いたある日、彼が自ら選択したものが“切る”活動です。大好きなカブトムシの形を切るお仕事でした。

4月当初は、ハサミを持つこともぎこちなく、上手いかわないので、すぐに「先生やって!」と手伝いを求めたり、手を止め、途中であきらめてしまうこともありました。今回も、初めはそんな姿でした。「先生やって!」私たちはもちろん、その言葉に寄り添い、「先生もお手伝いするけど、よく見てね」ハサミの持ち方、切る動作をゆっくりと見せます。初めは、見る事が中心でした。でも、このことは決して無駄ではありませんでした。あるとき、私がお部屋に入ると、真剣な表情でハサミを持ち、集中している彼の姿が見られたのです。正直、「先生やって!」と話しかけてくるかな?待ち構えている自分がいました。でも、なかなか言ってきません。そして、「先生見て」と持ってきたカブトムシは細かい部分は少し切れてしまったけれど、彼にとっては、自分で最後までできた——そのことをじっくりかみしめているような表情でした。自分自身の中で、「ぼくはできるんだ」そんな気持ちが生まれてきているようでした。そして、次の日もまた次の日も、繰り返し切る活動に向かっていました。

モンテッソーリは「繰り返すことはとても大切です」と言っています。“繰り返し”とは、何度も何度も心ゆくまで同じ動きや活動を、繰り返したいという欲求の1つです。そして、満足したとき、子どもは次へと向かっていきます。大人の合理性から考えると、対して価値のないことのように思えても、同じことを繰り返し、集中することで、子どもたちは成長します。そのことを、彼の姿を通して、改めて実感しました。

プライマリー A・Y



数字と玉

(数教育)

モンテッソーリの数の活動は「数と量の一致」から始まります。3の量は『●●●』で数字で表すと「3」になる、ということ色々な活動を通じて理解していきます。その中の1つが『数字と玉』です。木製で両面が赤い切り抜き数字(1~10)と、赤い玉55個が箱に入っていて、じゅうたんにまず数字を並べます。最初は表裏を逆に置くこともあります。数字の形がしっかり定着してくると、正しく並べられるようになります。次にその数字の下に同じ数だけ赤い玉を2列に並べていきます。4は2つずつ2列、6は3つずつ2列に並べますが、5や7の奇数は最後の1つを2列の間に並べます。こうして全てを並べ終わると、じゅうたんにきれいな数と量の一覧表ができあがるわけです。並べた玉の真ん中に指を通していくと、玉が2列にならんだもの(偶数)、真ん中に1つあってぶつかもの(奇数)が交互にくることに気づき、子どもたちの「おもしろい数の世界」は広がっていきます。(M.I)



手を洗う

(日常生活)

周囲の環境に配慮が出来るようになった子どもたちは、いよいよ自身「ふるまい」に興味を持つようになります。「手を洗う」お仕事は、ICでも行なっておりますが、プライマリーでは、さらに合理的な段取りや正確な動きの内容になります。まず、水差しで汲んできた水を洗いおけに移し、手を水に浸し注意深く水をきります。石鹸をつけて手の平や甲、爪ブラシを使い丁寧に洗います。その後タオルを使い手を拭く時は、指を一本一本拭き、最後にローションを塗って終了します。子ども達は、「自分でしたい」という要求に従って長い工程の提供を集中して覚え再現します。いつも洗っている手ですが、まるで「儀式」のように行なう姿は、いつもと違った面持ちです。普段の生活でも「鼻」をかんだり、安全ピンをつけたたりする子供たちに、急いでいる時、大人はつい手を出してしまいがちですが、子ども達が自分の「ふるまい」に気遣う事に対して周囲の大人が是非尊重してまいります。(K.S)



幾何立体のかご ~立体作り

(感覚教育)

「幾何立体のかご」というモンテッソーリ教具があります。かごには覆い布が掛けられ、中に10個の立体(球、立方体、円すいなど)が入っています。子どもたちは布の下のかごから任意の立体を一つずつ取り出し、手で十分触り、いろんな方向から見て立体の特徴を掴み、その後名称を知ります。何度も繰り返すうちに名称を聴くだけで、布の下のかごから立体を手探りで取り出すようになります。赤さんから行える活動ですが、青さんにもなると、その立体を工作などで再現します。子どもたちは画用紙の上に立体を置き、面を写し取り、切って立体を組み立てたり、粘土で球体を作ります。自分たちが工夫しながら作り上げる様子を見ていますと、触覚や視覚など感覚を使って取り込んだ立体のイメージは心の目に深く刻まれているように思えます。保育室などで、青い画用紙や粘土で作った立体を吊り下げたモビール作品をご覧になってみて下さい。(Y.K)



*保護者の方に“お仕事”をご紹介する目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは1人ひとりの“自己選択”の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、1人ひとり個性がありペースが違うのです。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしていきます。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらおうようなつもりでお読みください。

モンテッソーリ教育の小窓

先日、「お父さんお母さんの勉強会」がありました。その中でのバター作りでは、生クリームを容器に入れて、バターを作るのですが、容器を振ると「シャカシャカ」していた音がだんだん小さくなり、またふり続けると…音がなくなり、ふたを開け容器の中をのぞくと…ここはあえて言いませんが、とても楽しい体験でした。「早速、子どもと一緒にやってみました。」という方がたくさんいました。

実際に行う体験は、たくさんのことを教えてくれます。私たち大人は、ある程度知識や体験を積んでいますから、想像ができますが、子どもたちはどうでしょう?「生クリーム?」「バター?」はじめて出会うお子さんもあるでしょう。生クリームの性質も意識的に見せてあげることで、出来上がりの変化について、自らの気づきがたくさんあることでしょう。また「音」も楽しむことができました。栄養士の大橋先生が「まずは大人が楽しいと覚えることが大切です。」とお話されていました。みなさんとても楽しんでいらっしゃいました。

五感を使って、自分の身の回りのことを吸収するチャンスは身近にあると思います。私たちは、モンテッソーリ活動だけでなく、一日の保育の中で自分の体を使って感じる体験を大切にしています。そして、活動の中で教具とともに整理づけするのです。モンテッソーリ著の本の中に、「この年齢の子どもは身の回りの物を自分の手を使って経験せずにはいられないものでして、それが人間発達の自然法則とでもいうものです。そうすることが実用的にも知識を取り入れるためにもなっているわけです。」と述べています。子どもは、生まれてから最初の6年間をわけのわからないままに、現実の中に生きています。自分の身の回りにある物に興味があり、「これなあに?」の質問を投げかけてきます。その興味も尊重しつつ、「これなあに?」の質問に面倒くさげに答えてあげるといいですね。言葉で整理してあげるつもりで、どうぞ。モンテッソーリ教具がお家になくても、実体験は身近にあります。例えば、りんごを食卓に切って並べる前に、りんごそのものに触れる時間を作ったり、年齢によっては、自ら切ったり、出来ることはひとつだけではないはずです。これからもプライマリーでは“まっぼっくり、どんぐり”などにふれながら、楽しい体験をたくさんさせてあげたいと思います。

個別活動 モンテッソーリ活動

今、しゅんなお仕事



絵合わせカード (言語教育)

子どもたちは「ことば」を覚えていく気持ちで溢れています。実物を使って「ことば」を獲得するのが一番ですが、それには限界があり、そこで登場するのが「絵合わせのカード」です。14センチの正方形の画用紙2枚に同じ絵のついている物が6〜7組あり、同じ絵カードの一方にはその物の名前が書かれておりもう一方は名前がついていません。そのかわり名前だけが記されている小さなカードがついています。初めは同じ絵と絵を合わせる事からしますが、そのうちカードについている字と字を合わせます。「字」を形としてとらえている段階の子どもたちは、これを何度も行ないます。その後「字が読みたい」という気持ちに変わっていきます。カードの絵は子どもたちの身近な食べ物や動物から始まり、恐竜や岩石など科学につながる年長児用の物まで様々です。この活動には絵を助けとして楽しく「ことば」を覚える工夫が詰まっています。

(K.S)



線上歩行 (日常生活)

床に書いた線の上をゆっくり歩く「線上歩行」という活動です。多少線から外れたり、さっさと速く歩くならばそれほど難しくないのですが、意外と大人にも難しいものです。初めは、ゆっくり普通に歩きます。次にゆっくり短い歩幅で歩き、慣れてくると、かかととつま先をつけて歩きます。その後は、手に旗を持ったり、頭にお手玉を載せたり、足元以外の部分にも注意を払いながらバランスをとって歩きます。練習が進めば、水を注いだグラスや鈴、ろうそくを持って上手に歩くこともできるようになります。この活動は、運動をコントロールすることにより、自分の心が命じたように身体を動かすことの練習になり、平衡感覚、美しい姿勢も身につけていきます。子どもたちは全神経を集中し、注意力を働かせ、心を落ち着けて活動します。一本の線とゆっくり歩く、というちょっとした制限を与えるだけで、子どもたちはこの活動に意欲を燃やし、繰り返し楽しむのです。

(Y.K)



幾何図形重ね (感覚教育)

青パッチさんに人気のお仕事の中には、幾何図形重ねがあります。教具は正方形、円、正三角形が入った3つの箱です。箱の中は赤、青、黄に仕切られており、それぞれに1センチから10センチの薄いプラスチック製の図形が入っています。これらをじゅうたんの上に自由に並べて図形を構成する活動になります。お約束はたった1つ、「図形と図形をくっつけて（内接か外接）並べること」です。子どもたちはこの単純な教具を使って、じゅうたんに実に美しい幾何模様を作り上げていきます。これまでに様々な感覚教具を使ったお仕事を繰り返し行ない、五感を十分に洗練させてきた青パッチさんならではのです。図形を組み合わせる新しい図形を作り上げる楽しさに気づき、秩序だった配色を美しいと感じる美的感覚を育てるのもこのお仕事の特徴です。また非常に細かい手指の動きや忍耐力も必要とされるので、まさにこれまで積み上げてきたモンテッソーリ活動の集大成と言えるお仕事かもしれませんね。

(M.I)



*保護者の方に“お仕事”をご紹介する目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは1人ひとりの“自己選択”の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、1人ひとり個性がありペースが違うのです。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしていきます。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらおうようなつもりでお読みください。

モンテッソーリ教育の小窓

新しい年を迎えましたね。みなさんご家族の方たちと楽しい時間を過ごされたことでしょうか。

私は先月、育児支援のひとつ「出産を迎える親の体験学習」で1組のご両親とお話をしました。第1子の誕生をお二人は、楽しみにしていることと、お互いに支えあっている様子にふれ、自分自身のことを懐かしく思いました。わが子がお腹の中にいたこと、そして、出産のこと。「モンテッソーリ教育の胎児の世界」にふれるとあらためて、この世界のすばらしさを実感します。

お腹にいる赤ちゃんが、一番初めにもらうプレゼントは何だと思いませんか？それは、妊娠を初めて知った時の「嬉しい」という気持ちです。目に見える物よりも、母の思い、喜びはつながっているのです。母の思いを通して、これから生まれ出ていく世界を自分のものにしていくそうです。母親の胎内で守られながらも、すでに胎児自身も内にある力で自分を作っていくんですね。また、感覚器官も早い時期から、急速に発達します。ご存知の方もいらっしゃると思いますが、2ヵ月、3ヵ月から機能しはじめています。聴覚は、2ヵ月から5ヵ月の間に構造的な発達をするそうです。この頃から赤ちゃんは言語を習得しはじめています。

私も、目の前にわが子がいるようにたくさん語りかけました。時には元気に力強くお腹をけて反応してくると、とてもうれしかったものです。私の中で命が育っていることを実感した瞬間でもありました。そんなコミュニケーションが、母親になる気持ち、わが子への思いを高めてくれました。

みなさんも我が子出産のことを思い出すことがありますか？今年1年もその頃を思い出され、子育てへの励みになることでしょうか。私ももっともっと乳児教育を学んでいきたいと思います。日々の保育を通して、自分のものにしながら、お子さんの姿をご紹介してまいります。



ひみつ袋

(感覚教育)

感覚教具の中にももしろい名前の教具があります。その名も「ひみつ袋」です。1対の巾着袋の中には子どもたちの興味をそそる小物が入っています。例えば今入っているのが、木製のこま、貝がら、スポイト、さいころ、注射器などです。まずじゅうたんの前に巾着を持った2人が並んで座ります。先に出す人が袋の中に手を入れて好きなものを1つ取り出し、もう1人も同じものを手探りで探しじゅうたんに並べます。お約束は『袋の中を見ないこと』です。これは触覚の中でも手のひらで触って立体を識別する感覚を洗練させる活動です。いつも子どもたちがわくわくできるように、意外性のあるものや様々な素材のものを頻繁に入れ替えて「ひみつ袋」を準備しています。(M.I.)



お茶のサービス

(日常生活)

夏場はテラスでピッチャーとグラスを使って、冷たいお茶のサービスを行なっていましたが、今回は温かいお茶をティーカップでお出しします。まず、ティーボットのふたを抑えながら、慎重にカップに注ぎます。それをトレイにのせ、お客さま役のお子様の前にお持ちします。はじめは受け皿を両手で持ちテーブルへ置くとき、手が震えていたり、緊張の面持ちだった子どもたちも、回を重ねるうちに笑顔で「どうぞ」と言えるようになります。また、カップをさげる時、「お味はいかがでしたか?」「おいしかったです。」と、言葉をかけ合う様子は本当にほほえましく感じます。この様な事を繰り返すうちに、子ども達の中に、自然と「独立心」や「社交性」が身に付きます。(K.S.)



切手あそび

(数教育)

以前グループで活動する「銀行ごっこ」をご紹介しましたが、ビーズで経験を重ね、量感覚を掴むと、子どもたちは、今度は1人でたしざんやひきざんなどの計算のプロセスに取組みます。それが切手あそびです。この切手とは2.5cm平方の色つきの木片に1,10,100,1000という数字が書かれた教具です。子どもたちは、問題集から紙に問題を写し、切手を使って答えを出し、紙に答えを書きます。繰り上りや繰り下りがある場合も、1の切手10個と10の切手1個を交換するなどして答えを出します。そして最後に自分で問題集についている答えを確かめ、間違っただとしても、他人から指摘されることなく、自らそれに気づいてやり直し、正しい答えを出すことの楽しさを知ります。(Y.K.)



*保護者の方に“お仕事”をご紹介する目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは1人ひとりの“自己選択”の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、1人ひとり個性がありペースが違います。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしていきます。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらえようなつもりでお読みください。

モンテッソーリ教育の小窓

今年度も残すところ2ヵ月となりました。今年1年振り返ると子どもたちは、身体も大きくなり、心の成長もひとまわりもふたまわりも大きくなったことでしょう。あるお母さんのお話の中に、“おしごと”をさせてあげたいという声をききました。また、朝遅くなってしまうと、“おしごと”終わっちゃいました?”と聞いて下さいます。モンテッソーリ活動の時間を大切に考えてくださる声をうれしく思います。

“おしごと”を通して、どんなところが成長したなど感じますか?お子さんが持ち帰ったおしごとの数々…それは、自分の名前を書けるようになった、たしざんができるようになった、はさみで細かい物も切れるようになった等、たくさん「できた!」を、作品を見て感じることでしょう。それももちろんなのですが、そこにたどりつくまでには、数々の子どもたちの姿があります。ある黄色バッチさんのお話です。必ず途中でわからなくなると、他の子とお話を始めたり、最後まで終わることが出来なかったりを繰り返していました。そこで、「わからなかったら、聞いていいんだよ」とお話をして様子を見ていました。最初はなかなか、手が止まってしまう時間もかかりましたが、やっと完成することができた時はとても嬉しそうで、自分で最後までできたことが自信につながった瞬間でした。それからは、おしごとの誘いもやる気に満ち、出来ない時には、自ら聞いてくることも多くなり、積極性も見られています。今の時期は、適度な刺激と、見守り待つことを繰り返しながら、子ども自身が動き出すプロセスを大切に育ててまいりたいと思います。

このようにおしごとを通して、自主性や自立心が育ちます。そして、必ず同じ場所に片付けたり、使った物を新しく準備したりすることは、次に使うお友達のため、まわりへの思いやりも育ちます。ただ結果だけにとらわれず、子どもたち一人ひとりが、ここまで活動を終えられたことを振り返りながら、一緒に喜びたいです。そして、今何に興味があって、どんなところを伸ばしてあげたいのか、私たち大人同士が一緒になって考え活動を準備することを大切にしていきたいと思っています。

プライマリー 秋元有里



雑音筒

(感覚教育)

子どもたちが、夢中になるお仕事に、「雑音筒」があります。この教具は、1つの箱に赤のふたのついている筒が6個、もうひとつの箱に青いふたのついた筒が6個入っていて、それぞれの筒の中には、石や砂などで音の強さの違うものが入れています。まずは、赤いふたの筒と、青いふたの筒を交互に耳で振って、同じ音の物をさがしペアにします。その後同じ色のふたの6本をそれぞれ強いものから弱い物へ並べるのです。子どもたちは、何度も振ってその音を聞き分けようと一生懸命です。時には目をつぶり聞き入っている子どももいます。大人にとって何てことない音にも子どもたちは興味をひかれるのでしょう。これを繰り返すうちに子どもたちはかすかな音まで聞き分けられるようになります。(K.S)



花の水替え

(日常生活)

美しいものが大好きな子どもたちのために、モンテッソーリ園のお部屋には小さな花瓶に入った花がよく飾られています。花を愛でる心や、季節の移り変わりを感じる心を育てる環境作りでもあります。そしてこれらの花もちゃんと生きていて、お世話が必要なのだ学ぶことができるのが「花の水替え」のお仕事です。花瓶をブラシで洗って新しい水を注ぎ、ぬるぬるした茎を洗い、水の中で茎を切る水切りを行います。そして茎の切り口を虫眼鏡で観察し、水を吸っていることを確認します。「お水を飲んでるね～」と覗き込む子どもの顔は真剣そのものです。このような日常の小さな植物との関わりが、自然界への興味へとつながってゆくのでしょうか。(M.I)



国旗

(文化教育)

卒園を前に、これまで取り組んできたお仕事を仕上げるため、登園するとすぐにそれぞれの課題に向かう青バッチさんの姿が見られます。アジアの国旗の本を作るお仕事もその一つです。最初に、アジアの国のはめ込みパズルをして、地図を作り、その後国旗のお仕事に進みます。準備されたファイルの中から自分で好きな国の国旗を選び、図案に色を塗り、国名を書きます。50近い国を仕上げるのはとても根気のいる作業ですが、一つ一つ丁寧に仕上げています。最近、船で世界各地を旅された先生から、寄港地の国のお話を聴いたり、写真をスライドで見せて頂く機会がありました。好奇心旺盛な子どもたちが世界の国々に目を向ける機会をたくさん探したいです。(Y.K)



*保護者の方に“お仕事”をご紹介する目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは1人ひとりの“自己選択”の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、1人ひとり個性がありペースが違います。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしていきます。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらおうようなつもりでお読みください。

モンテッソーリ教育の小窓

先日の“成長を喜ぶ会”では、ご家族の皆さんと一緒に子どもたち一人ひとりの成長を振り返ることができましたね。他のバッチの姿を通してお子さんの成長を改めて感じたり、まだ見ぬ先のお子さんの姿を想像してみたりしたのではないのでしょうか。

いよいよ、就学・進級が近づいてきました。先月に入り、青バッチさんが中心に行なってきた食後の片付けを黄色バッチさんが行っています。とても感心させられます。しかしまだ青バッチさんが行なっていたように時間どおりに終わることはできません。時にはトラブルも生じます。でも黄色バッチさん一人ひとりの気持ちの中に、次は私たちが手本となりリーダーになる気持ちが芽生えているのを感じます。その中に赤バッチさんや緑バッチさんも時々参加しています。何とも微笑ましい姿です。

プライマリーは、子どもたちの学びの場である通り、子どもたちが自ら自分たちの生活の場を作り上げていること、自分たちで何かをしたいということをこの一年を通して実感します。また、青バッチさんの存在を改めて感じました。憧れの青バッチさんの存在が、今こうして新しいバッチへと引き継がれています。そのことを実現できる環境作りを私たち大人が大切にしなければなりません。

青バッチさんが卒園する日が近づいてきます。6才までのこの時期にモンテッソーリ教育にふれ、実体験を通して、心も体も大きくなりました。自信をもって新たな場所で自分の世界を広げていってください。

モンテッソーリ教育は、「平和教育」とも言われます。子どもたちが自分を大切にすること、他者への思いやりや感謝の気持ちをもつこと…そんなことを日々、一緒に感じ学んでいきたいです。「平和は子どもたちから…」この言葉のように、平和が子どもたちを通してつながっていきますように…。